丹羽大使襲撃犯の背後に大物の影

中国「愛国教育」エリートが…　泥沼領土問題

『週刊朝日』２０１２年９月１４日号

「隣人」の暴走が止まらない。駐中国大使の乗る車が、白昼堂々と襲撃された前代未聞の事件。その背景には、「愛国無罪」の精神を教え込まれた中国の若者たちと、その愛国教育を進め、権力闘争の渦中でうごめく彼の国の実力者たちの姿が見え隠れする。したたかで傍若無人なその態度に、日本は振り回されるしかないのか。

白のＢＭＷと銀のアウディが、パッシングとクラクションを繰り返しながら、黒のトヨタ・レクサスを執拗に追っていく。約１０分間に及ぶカーチェイスの末、ＢＭＷとアウディがレクサスの前に回り込んで急停止した。ＢＭＷの助手席から降りてきた若い男が、何かを叫びながら、レクサスのヘッドライトの上に掲げられた日の丸の国旗をもぎ取り、そのまま車２台は走り去った。

まるでアクション映画のワンシーンである。

８月２７日午後４時すぎ、丹羽宇一郎・駐中国大使（７３）の乗った公用車が、北京市郊外の環状線道路で襲われるという事件はこうして起きた。かつて日本の大使の乗る車が襲われ、国旗が奪われた例はない。北京市内在住の日本人会社員はこう話す。

丹羽宇一郎駐中国大使（2012 年）

「事件が起きた『四環路』は、北京五輪が行われた競技場などにも通じる北京の交通の大動脈です。朝夕は複数車線がすべて渋滞しますし、まさかそこでカーチェイスだなんてありえません」

ありえないことが起きてしまうのが、いまの日中関係なのか。尖閣諸島への上陸をめぐる問題で、緊張が高まっているさなかの出来事である。日本大使館は事件当日に中国外務省に抗議。また、同乗の大使館職員がナンバープレートや、国旗を奪った男の顔を撮影していたため、写真を証拠として提出し、器物損壊容疑で捜査するよう要請した。

容疑者特定の知らせが中国側からあったのは3日後の30日夜のこと。北京市公安局は事情聴取した男女4人について、刑事責任を問うことなく、軽微な不法行為を対象にする「治安管理処罰法」を適用するとみられている。その場合、行政処分として5千元（約6万2千円）以下の罰金か、15日以下の拘留などの処分が科せられる見通しだ。

現段階（9月1日現在）では「男女4人」「実行犯は30代男」と情報が断片的で、最も知りたい「犯人像」がはっきり見えてこない。こんな大それた犯行に及んだのは、何者なのか。

中国でビジネスマンとして働いた経験があり、『2014年、中国は崩壊する』（扶桑社新書）の著者でもある国会新聞社編集次長の宇田川敬介氏はこう話す。

「30代の若者がBMWやアウディに乗るというのは不自然ですね。特にアウディは中国では公用車に使用され、一般の若者が乗る車としてふさわしくない」

日本の公用車で例えるなら、センチュリーなどのイメージだろうか。中国でそのクラスの高級車を所有できる層は、一握りの成功者、もしくは軍や共産党の高官、そしてその子女たち。つまり「エリート」層に限られる。

また30代という年齢でわかるのは、江沢民（チアンツォーミン）・前国家主席（86）が1990年代半ばに本格化させた愛国教育を受けてきた世代であるということだ。子どもの頃から刷り込まれた「愛国無罪」の精神が、暴挙の後ろ盾となった可能性はある。

この襲撃犯たちに対して、ネット上には、

「我々の英雄を守れ」

「政府は愛国勇士を逮捕するな」

などと全面擁護する中国語の書き込みであふれ、さらに中国の主要ポータルサイト「騰訊網」の調査では、回答者約5万3千人のうち82％が、襲撃をありえないどころか「良いこと」だとしているのだ。ネットユーザーに若者が多いであろうことを考えると、これもやはり「愛国教育」のたまものなのか。

●胡錦濤ｖｓ．江沢民、党内の派閥争い

さて、在日中国大使館は事件について「偶発的」と主張しているが、それはどうだろう。中国当局は事件後、国内メディアに対して、当局の発表以外に独自報道をしないよう規制する通達を出していたという。

中国の政府系シンクタンク、中国社会科学院日本研究所の高洪副所長は８月２９日に開かれたシンポジウムで、公安筋の話として、ＢＭＷがつけていた安徽（あんき）省のナンバーは偽造された可能性があると語った。中国出身の評論家、石平（せきへい）氏はこのような見立てを示す。

「中国側が主張する『偶発的』な事件ではなく、計画的犯行の可能性があります。大使の動向も把握していたとなれば、犯人は大使館関係者か政府関係者のどちらか。私はおそらく、政府内の反胡錦濤（フーチンタオ）派による犯行だと思います」

その根拠をひもとく前に、まずは現在の中国政府が置かれている状況を振り返っておきたい。

中国共産党の新指導部を決める党大会が、秋に迫っている。胡錦濤国家主席（６９）が２期１０年務めた最高指導者にあたる党総書記を退き、新総書記に習近平（シーチンピン）国家副主席（５９）が就くのが既定路線だ。

この政権交代で動く人事をめぐり、現在、党内の二大勢力がしのぎを削っている。胡主席をはじめとする「共産主義青年団」出身者と、党の幹部の子弟でつくられる「太子党」。太子党のバックには江前主席がついていて、胡錦濤派と反胡錦濤派＝江沢民派がせめぎ合う構図だ。そんな中、江沢民派の次世代の代表格、薄熙来（ポーシーライ）氏（６３）が失脚し、その妻もこの８月、殺人罪で執行猶予付きの死刑判決に。結果、胡錦濤派が優位に立ち、人事の主導権を握っているという。

「胡錦濤派に主導権を握られている党人事で、江沢民派は巻き返しを図りたい。党内には現在、江沢民派の周永康（チョウヨンカン）が就いている、警察や検察や司法を司る政法委員会書記という重要ポストがあるのですが、胡錦濤派による新人事ではこのポストの権限が弱められようとしています。それを阻むため、江沢民が周永康と企ててデモや大使車襲撃を仕掛け、『人事を好き勝手にするなら混乱を大きくする』と胡錦濤派を揺さぶったのではないか」（石氏）

そのとおりであるなら、いま起きているのは、まさに中国の新旧指導者による仁義なき戦いだ。

一方、中国事情に詳しい評論家の宮崎正弘氏は、軍部の関与を指摘する。

「領土問題などにおける胡錦濤の軟弱外交路線に対する反抗が動機です。ガス抜きの意味もあるでしょう」

先ほど触れたように、ＢＭＷの安徽省ナンバーが偽造だとするなら、それは胡主席に対する嫌がらせだと宮崎氏は言う。

「胡錦濤の戸籍上の出身地は安徽省です。ほかにも次期首相候補の李克強（リーコーチアン）ら同省出身者は多く、安徽省は改革派のシンボルとされています。たとえば、江沢民派の一人だった薄熙来の妻の事件は重慶市で起きたのに、裁判は安徽省で行われている。これはまさに胡錦濤をはじめとした『安徽閥』の意向でしょう。そして、もし安徽省ナンバーが偽造されて犯罪に使われれば、自然と『安徽閥』の彼らに非難の目が向くわけです」

●愛国教育受けた世代が指導層に

一党独裁で厳しい秩序を敷こうとする中国共産党だが、その実、一枚岩ではないのだ。宮崎氏によれば、各地で起こっている学生による「反日デモ」も、実は中国政府に不満を持つ「反政府デモ」である場合が少なくないという。

そうした中国共産党の「内憂」から、まったく逆の見方もある。前出の宇田川氏が提起するのが、ズバリ胡錦濤派“主犯”説だ。

「胡錦濤はこの事件に対する世間の評価によって、中国政府に対する国民の支持を見極めようとしたのではないか。そもそも、北京市内で１０分以上もカーチェイスが続くこと自体がおかしい。大使の身に危険が及んだ時点で、犯人は公安当局に殺されてもおかしくありません。公安当局は今回の“計画”について知っていたはず。おかしいことばかりですが、それも胡錦濤かその側近の指揮によるものだとすれば理屈が通ります」

いずれにしても、これらの説で共通するのは、襲撃事件には“中国指導部の意向”が反映されているという観測である。

今回の事件が、これまでの反日デモなどと決定的に違うのは、エリート子弟がかかわっていたとみられる点だ。愛国教育を受けた彼らは、強烈な反日感情を抱いたまま、いずれは国の指導層となっていく。その時代は、もうそこまできているのだ。

ところが、大使車襲撃事件以降、野田佳彦首相は胡主席宛ての親書を出すにとどまり、尖閣問題についてもその場しのぎの対応を続けている。

対韓国にしても同じだ。竹島上陸、天皇訪韓の条件に謝罪を求める発言、親書の返送と「暴走」を続ける李明博（イミョンバク）大統領（７０）は、今度は慰安婦問題で日本を強く批判している。中韓の反日姿勢は、タガが外れたようにエスカレートしている。

この後も、懸念は増える一方だ。先の宮崎氏は、

「１９３１年の満州事変が起きた９月１８日から、１０月に予定される共産党大会までの間に、日中間で再び緊張が高まる可能性がある」

と警告する。

こうした厄介な「隣人」たちと付き合うために、日本は声を上げていかなくてはならないだろう。先の石氏も「何も言わない日本が変われば、相手も変わる」という。

もちろん、度を過ぎた「愛国」は「有罪」である。だが、隣国に最初からなめられるような国では、健全な愛国心など育つはずもない。（本誌・坂井浩和）

■中国・韓国をめぐる最近の動き（★は韓国）

２月　６日　重慶市の王立軍・副市長が四川省成都の米国総領事館に駆け込む事件が起きる

１４日　中国共産党の次期最高指導者と目される習近平・国家副主席が訪米

３月１５日　中国共産党が、重慶市トップの薄熙来・市共産党委員会書記を解任すると発表

８月１０日★李明博大統領が、現職大統領としてはじめて竹島に上陸。ロンドン五輪サッカー男子の３位決定戦後、韓国のパク・チョンウ選手が「独島は我々の領土」と韓国語で書かれた紙を掲げる

１４日★李明博大統領が「（天皇は）韓国を訪問したいのであれば、（日本の植民地支配からの）独立運動で亡くなった方々を訪ね、心から謝るのがよいと（日本側に）言った」と発言

１５日　香港の活動家らが尖閣諸島の魚釣島に上陸。領海で停泊していた乗組員と合わせて計１４人を沖縄県警と海保が出入国管理法違反容疑で現行犯逮捕。その後、強制送還に

１７日★外務省幹部が、李明博大統領の竹島上陸などに「遺憾の意」を示した野田首相の親書を韓国側に渡すも、韓国側は受け取りを拒否

１９日　日本人１０人が尖閣諸島の魚釣島に上陸。浙江省の日本料理店でガラスが割られるなど、約２０都市でデモが起こる

２０日　薄熙来・前重慶市共産党委員会書記の妻である谷開来被告が、英国人実業家を毒殺したとして２年の執行猶予付きの死刑判決を受ける

２３日★野田首相が李明博大統領に宛てた親書を、韓国側が日本に書留郵便で返却

２７日　北京で丹羽宇一郎駐中国大使の公用車が襲撃され、車に立てた国旗が奪われる

３０日　中国外務省が、丹羽大使の車が襲撃された事件について、「容疑者をすべて割り出し、現在、捜査を進めている」と北京の日本大使館に通告

３１日　山口壮外務副大臣が、野田首相の胡錦濤国家主席宛ての親書を中国側に手渡す